平成 24 年度公益社団法人日本水環境学会東北支部セミナー

- 実施報告 -

平成 24 年 12 月 8 日(土)15：00～17：30、岩手大学工学部銀河ホールにおいて標記セミナーを開催しました。参加者は 65 名。

海田支部長の挨拶で開会、テーマ「東日本大震災が岩手県沿岸環境と下水道に与えた影響」に沿って 4 名の方々にご講演頂きました。

演題①　「下水道施設における震災危機管理対応」(公財) 岩手県下水道公社　佐藤　卓　氏

東日本大震災の発生後、当公社が行った緊急時の対応について、当時の状況を把握するとともに改善策を検討し、今後の実効ある危機管理体制を構築するため、震災時危機管理対応実態調査を実施した。調査により抽出された課題について改善策を検討し、関係機関に提案・協議を行い、現在、新たな危機管理体制のもとに下水道施設の維持管理を行っている。

演題②　「下水道処理過程における放射性物質の挙動」岩手大学工学部　石川 奈緒 先生

下水処理場へ流入した放射性物質がどのくらいの割合で放流水・汚泥・焼却灰へ分配されているのか、ナチュラルアナログを用いて下水処理過程での放射性物質の挙動を推定した。下水処理過程での挙動、汚泥への移行割合は放射性物質の種類（元素）によって異なっていた。また、放射性物質の流入量は減少傾向にあり、今後も減少していくと考えている。

演題③　「水中瓦礫除去ボランティアと被災地の水生生物の状況（大槌川）」NPO 法人イーハトーブ里山水棲生物保存会　佐井　守　氏

東日本大震災による津波被害の現地調査と瓦礫除去作業を通して感じたことを、写真、映像等で表現した。水中がれき除去ボランティアを行って感じていることとして、海中や陸上など作業しやすい場所はかなり除去されてきたが、河口域など管理者があいまいで作業の進め辛いところに危険物を含む多くのがれきが取り残されており、今後の環境への影響を危惧している。

演題④　「三陸の汽水域生態系の現状とそのワイズユース～特にマガキの天然・人工採苗とモクズガニの生息調査について」岩手医科大学　松政　正俊　先生

津波により無生物に近い状態になった汽水性潮間帯には昨年はわずかな生物しか認められなかったが、津波から１年以上が経過した今年の夏には、マガキやアサリなど水産上有用な種類を含む種々の生物がその数を増してきている。岩手県で生産されるカキの種苗はほぼ宮城県に依存しているが、津波や伝染病などの深刻な撹乱に対応するためには、リアス式海岸の湾奥に点在する汽水域に生息するマガキを「メタ群集」の主要種と認識し、岩手での種苗生産もある程度可能にしておくことが肝要と思われる。

以上の講演終了後、岡田副支部長の挨拶により閉会となりました。
本セミナーの開催に当たり、ご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

（岩手県環境保健研究センター　伊藤朋子）